

<p>3.出来形及び出来ばえ</p>	<p>II.品質</p>	<p>a</p>	<p>a'</p>	<p>b</p>	<p>b'</p>	<p>c</p>	<p>d</p>
<p>3.出来形及び出来ばえ</p>	<p>港湾築造工事 (浚渫、海岸築造工事を含む)</p>	<p>□ 評価対象項目の履行状況（評価値）と品質関係の試験結果のばらつきとから判断する。</p> <p>【関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験】 ※ばらつきの判断は別紙-4参照。 別紙-3の作成は別紙-5により行う。</p>					<p>□ 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超え不適合に該当する。</p>
		<p>【評価対象項目】 [共通]</p> <p>□ 1. 濁り防止等環境保全に十分注意して施工していることが確認できる。</p> <p>□ 2. 既設構造物に影響のないよう十分検討して施工されていることが確認できる。</p> <p>□ 3. 航行船舶に影響のないよう十分検討して施工されていることが確認できる。</p> <p>□ 4. 材料等の品質に異常値が想定される場合、品質確認に必要な試験等が行われていることが確認できる。</p> <p>□ 5. 気象・海象を十分調査して施工されていることが確認できる。</p> <p>□ 6. 設計図書に定められた施工上の注意事項が守られていることが確認できる。</p> <p>□ 7. 作業船が十分管理下におかれ、統率されていることが確認できる。</p> <p>□ 8. その他（理由）</p> <p>[浚渫・床掘関係]</p> <p>□ 9. 土砂処分における運搬途中で漏出がないように施工していることが確認できる。</p> <p>□ 10. 設計図書に定められた施工上の注意事項が守られていることが確認できる。</p> <p>□ 11. 潮位及び潮流、波浪等の状況を十分把握して施工されていることが確認できる。</p> <p>□ 12. 土質改良を適切に行っていることが記録で確認できる。</p> <p>□ 13. 土捨場土量に制約がある場合、適切な土量で、許容範囲に精度良く平坦に仕上がっていることが確認できる。</p> <p>□ 14. 土捨場に制約がなく、深掘しても周辺構造物に影響がない場合、今後の埋没も考慮し、深く平坦に仕上がっていることが確認できる。</p> <p>□ 15. 土質に対して、適正な船舶、機械を使用し、周辺環境への影響を最小限に押さえていることが確認できる。 (大型船による施工で、作業日数短縮等も含む)</p> <p>□ 16. 浚渫・床掘時に濁り防止に十分注意して、漏出がないように施工していることが確認できる。</p> <p>□ 17. 浚渫工又は床掘工において、作業現場の土質条件、海象条件、周辺海域の利用状況等を考慮して、効率的な作業が可能な作業船を選定していることが確認できる。</p> <p>□ 18. 土砂運搬において、施工の効率、周辺海域の利用状況を考慮して、土砂の運搬経路を決定していることが確認できる。</p> <p>□ 19. 床掘工において、底面、法面の施工で出来形の許容範囲を超えた場合、置換材と同等以上の材料で埋め戻しを行っていることが確認できる。</p> <p>□ 20. 置換材の規格・品質が試験成績表等（現物照合を含む）で確認ができる。</p> <p>□ 21. 砲弾等の爆発物が発見された場合、関係機関への報告が速やかになされていることが確認できる。</p> <p>□ 22. その他（理由）</p>					
		<p>①当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。</p> <p>②削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として比率（％）計算の値で評価する。</p> <p>③評価値（％）＝該当項目数（ ）／対象評価項目数（ ）</p> <p>④なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。</p>					

3.出来形及び出来ばえ
II.品質

港湾築造工事
(浚渫、海岸築造工事を含む)

[地盤改良関係]

- 23. 改良材料の管理記録が整理され、品質管理を適切に行っていることが記録で確認でき、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- 24. 浮泥を巻き込まないように置換材を投入していることが確認できる。
- 25. サンドドレーン・砕石ドレーン、サドコンパクションバル及びロッドコンパクションが連続した一様な形状・品質に施工されていることが打込記録等により確認できる。
- 26. ペーパードレーンが計画深度まで破損なく正常に形成されていることが打込記録等により確認できるとともに、打設を完了したペーパードレーンの頭部が保護され、排水効果が維持されていることが確認できる。
- 27. 深層混合処理の打込記録から、設計図書に定められている事項が確認できる。
- 28. 前記以外の改良工法について、記録から設計図書に定められている事項が確認できる。
- 29. 盛り土の状況確認及び管理を適切に行っていることが記録で確認できる。
- 30. 捨石、被覆石等の石材は、扁平細長でなく、風化凍壊の恐れのないものが使用されていることが確認できる。
- 31. 施工面から浮泥等の品質の害となるものを除去してから施工されていることが確認できる。
- 32. マットの施工が平滑に仕上げられていることが記録により確認できる。
- 33. 捨石、被覆及び根固め石の施工が平滑に仕上げられていることが確認できる。
- 34. その他(理由)

[マット、捨石及び均し関係]

- 35. 捨石、被覆石など材料の規格・品質が試験成績表等(現物照合を含む)で確認できる。
- 36. マットが破損なく所定の幅で重ね合わせられていることが写真記録等により確認できる。
- 37. 捨石、被覆及び根固め石がゆるみのないよう堅固に施工され、記録により確認できる。
- 38. 裏込めが既設構造物及び砂防目地板の破損がなく、記録により確認できる。
- 39. その他(理由)

[本体：杭及び矢板、控工関係]

- 40. 鋼材の規格・数量が試験成績表等(現物照合を含む)で確認できる。
- 41. 鋼材の保管にあたり、変形及び塗覆装面に損傷を与えないよう、適切に処理されていることが確認できる。
- 42. 杭及び矢板に損傷や修復痕がなく施工されていることが確認できる。
- 43. 杭及び矢板の打止めの施工管理方法等が整備され、かつ記録が確認できる。
- 44. 腹起し材を全長にわたり規格の水平高さに取り付け、ボルトで十分締め付け矢板壁に密着させていることが確認できる。
- 45. タイロッドは隅角部等特別な場合を除き矢板法線に対して直角に設置されていることが確認できる。
- 46. 溶接及び切断の品質管理に関して設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- 47. その他(理由)

[本体：ケーソン据付、ブロック据付関係]

- 48. ケーソン仮置に先立ち仮置場を調査し、仮置作業が所定の位置に異常なく行われていることが確認できる。
- 49. ケーソン据付に先立ち、気象、海象等を十分調査し、据付作業が所定の精度で行われていることが確認できる。
- 50. ケーソン据付等及び中詰において、ケーソンおよび既設構造物等の破損がなく施工されていることが確認できる。
- 51. コンクリートブロック据付に先立ち、気象、海象等を十分調査し、据付作業が所定の精度で行われていることが確認できる。
- 52. ブロック据付等において、ブロック及び既設構造物等の破損がなく施工されていることが確認できる。
- 53. ケーソンえい航に先立ち、気象、海象等を十分調査し、適切な時期を選定されていることが確認できる。
- 54. ケーソンえい航に先立ち、上蓋、安全ネット又は吊り足場等を設置し、墜落防止の措置を講じていることが確認できる。
- 55. ケーソン注水時の隔室の水頭差が1m以内になるように管理されていることが確認できる。
- 56. ケーソン仮置き、据付の時期について、設計図書を満足するよう実施されていることが確認できる。
- 57. 中詰において、海上漏出がないように施工されていることが確認できる。
- 58. その他(理由)

次ページに続く

3.出来形及び出来ばえ
II.品質

港湾築造工事
(浚渫、海岸築造工事を含む)

[コンクリート関係]

- 59. コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質（強度、水セメント比、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等）が確認できる。
- 60. コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。
- 61. 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。
- 62. 施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ、締固め方法及び養生方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。（寒中及び暑中コンクリート等を含む）
- 63. コンクリートの圧縮強度を管理し、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っていることが確認できる。
- 64. コンクリートの打設前に、打継ぎ目処理を適正に行っていることが確認できる。
- 65. 鉄筋（PC鋼材含む）の品質が、証明書類で確認できる。
- 66. 鉄筋の引張強度及び曲げ強度の試験値が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- 67. コンクリート打設までに錆、泥、油等の有害物が鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。
- 68. 鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- 69. 圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っていることが確認できる。
- 70. コンクリートの養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- 71. スパースの品質及び個数が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- 72. スパースを適切に配置し、鉄筋の被りを確保していることが確認できる。
- 73. プレベーム桁のプレフレクション管理が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- 74. 使用する装置及び機器のキャリブレーションを事前に実施していることが確認できる。
- 75. PC鋼材の緊張及びグラウト注入管理値が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- 76. プレストレッシング時のコンクリート圧縮強度が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
- 77 その他（理由）

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで 判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評 価 値	90%以上	a	a'	b	a'
	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b
	60%以上 75%未満	b	b'	c	b'
	60%未満	b'	c	c	c

注 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目（評価値）だけで評価する。